
相模原市では、2000年に学校給食調理業務の退職者不補充・随時民間委託および、将来的な全面委託が決定しました。相模原市職労学校給食調理員部会は、24年間にわたり正規調理員の必要性を訴え続けるとともに、災害対応や教育現場での役割、関係機関との信頼構築など多角的な取り組みを重ね、24年ぶりの新規採用の再開を実現しました。本レポート（スライド）では、その実践と直営給食の意義、組合活動の可能性について報告します。

24年ぶりの学校給食調理員新規採用を勝ち取るまで

神奈川県本部／相模原市職員労働組合・学校給食調理員部会 西川 義夫

2026.10.2-3

第41回地方自治研究全国集会
ふくい自治研

24年ぶりの 学校給食調理員 新規採用を勝ち取るまで

西川 義夫

神奈川県本部／相模原市職員労働組合・学校給食調理員部会

相模原市の正規調理員の過去最大人数と 現在との比較

24年前は200名以上



現在は半数以下



最終的には、任用替えを含め正規調理員をゼロに、委託する考え

教育委員会は、調理業務を委託にすることでどのようなメリットがあるのか？

1. 人件費等削減によるコストダウン

2. 責任の軽減



あらゆる可能性を探り、行動に興す

イメージ図



教育局交渉（2001～2024年）

災害時の位置づけと、新規採用を求め24年間に及ぶ交渉協議
2000年に決定した退職者不補充随時民間委託撤回の要求・交渉

要求 正規学校給食調理員の必要性の再検討を！！



回答 退職者不補充随時民間委託の方向で変更なし。
正規調理員採用が委託に勝る根拠の提示を。

災害時の位置づけも、検討すらしてもらえず、毎回交渉は決裂。

学校給食調理員部会が取った行動

全体集会を開催し、全調理員に災害時の炊き出し提案



全調理員に炊き出し実施への賛否確認



全調理員による署名確保



教育長へ署名提出

- 毎週、夕方に教育委員会に出向いて、本気度を伝える。

災害時の司令塔である危機管理部と直接提案

正規調理員がリーダーとして委託業者と一緒に炊き出しを行う



災害時における炊き出し拠点校の提案



危機管理課の見解は、「非常にありがたいが、教育委員会の中で決めてほしい。」



危機管理部との協議した内容を教育委員会とも共有し、給食部会からの要望として、九都市防災訓練の炊き出し班に参加

危機管理部とも協議

委託が好まれている実態を知る 学校長は委託推進派？直営推進派？

【直営調理員】



直営 ▲ 調理員同士のいざこざ対応
委託 ○ 給食を教室まで運ぶ業者も
直営 ○ 学校行事への参加と協力

【学校長】



このまま教育委員会と協議をしても 何一つ変わらないことに気付いた



調理員同士が仲良くなることが教育委員会の願い

ノーモアハラスメントスローガン（仕事前に各自目読）

- パワハラを、しない、させない、職場の和
- 思いやりの心をもとう
- 相手を責めたり威圧をかけないようにしよう
- 自分がされて嫌なことは相手にしないようにしよう
- 協調性を高め、許せる心をもとう
- 怒鳴ったり語気を強めた言い方をしないようにしよう
- 相模原市の職員として自覚を持ち、みんなで優しい調理員になろう

学校給食調理員部会と教育委員会 関係 5 課との関係性を改めたこと

文句や主張ばかり言っても、前進はしない

信

学校給食課

教育総務課



頼

教職員人事課

教職員給与厚生課

学務課

また新たに懲りずに提案したもの

少人数の単独校なら、直営の方が安いんじゃないの？

提

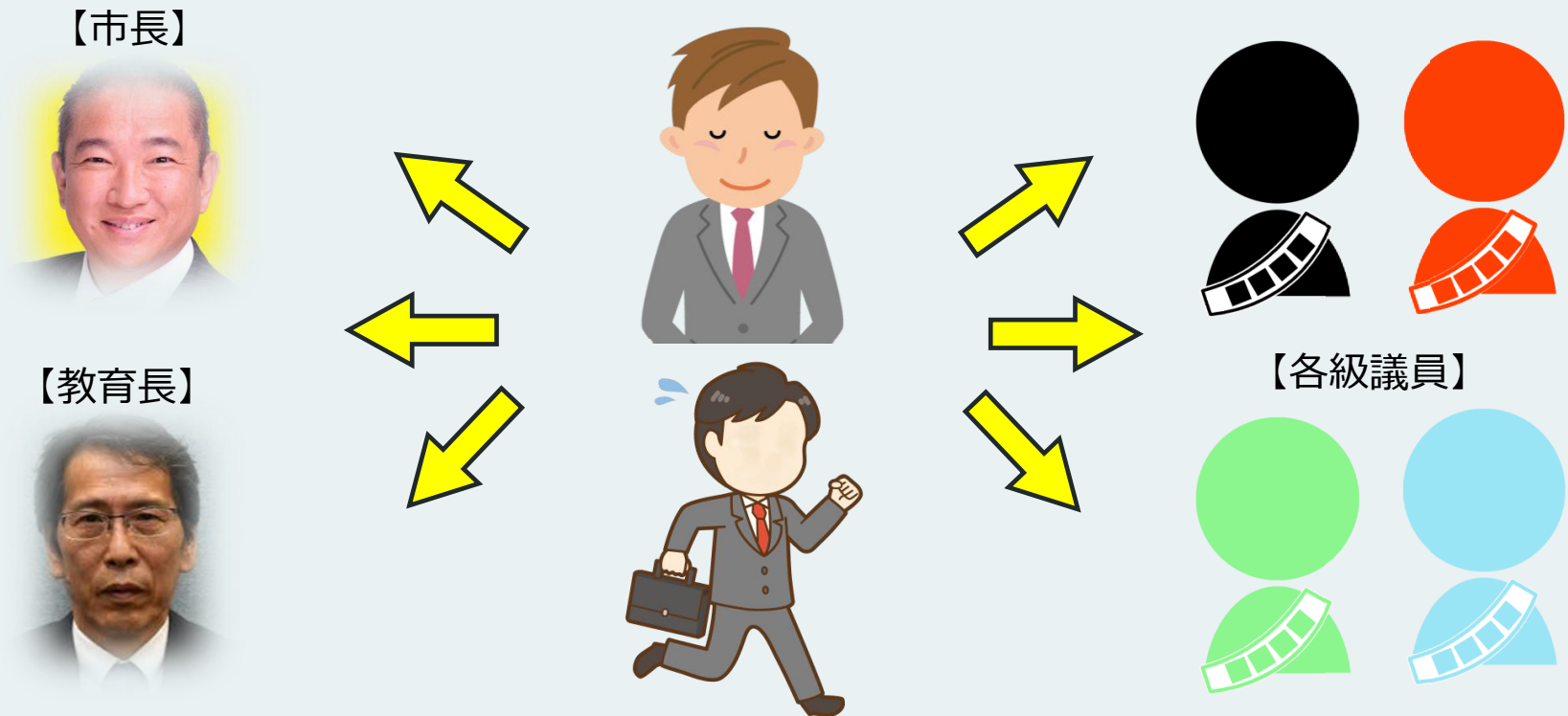


案

何度も諦めずに、いつでもプラス思考で！



市長、教育長に調理員の採用と定数化を直談判



各級議員にも直営の必要性のアピールと力添えをお願い

教育委員会に味方探しの旅

誰か直営調理員の味方になってくれる人いないかな…



教育委員会と何度も給食調理員の必要性を訴える



給食調理員の採用再開に承諾



2022春闘教育局交渉

要求

退職者不補充、随時民間委託を撤回し、正規職員の必要性を再検討すること。

回答(検討すらし)

『給食調理業務については、退職者不補充と再任用職場を確保しながら、順次、民間委託を進めているところです。協議については必要に応じて実施してまいります。』

2024春闘教育局交渉

要求

幅広い角度から直営給食調理員の必要性を考え、定数化を実現すること。また、配置体制を含めた将来展望を示し、現場の調理員に抱かせている職域存続への不安を早急に解消すること。

回答(採用の再開)

『給食調理業務については、民間委託体制のみならず、一定の直営体制を安定的に維持していくことも必要と考えています。このため、来年度から給食調理員の採用を再開するなど、必要な給食調理員数の確保に取り組んでまいります。』

24年ぶりの採用の再開

新規採用決定



今思うこと

自分たちで提案し、訴え続けなければ何もかわらない
熱意は人を動かす

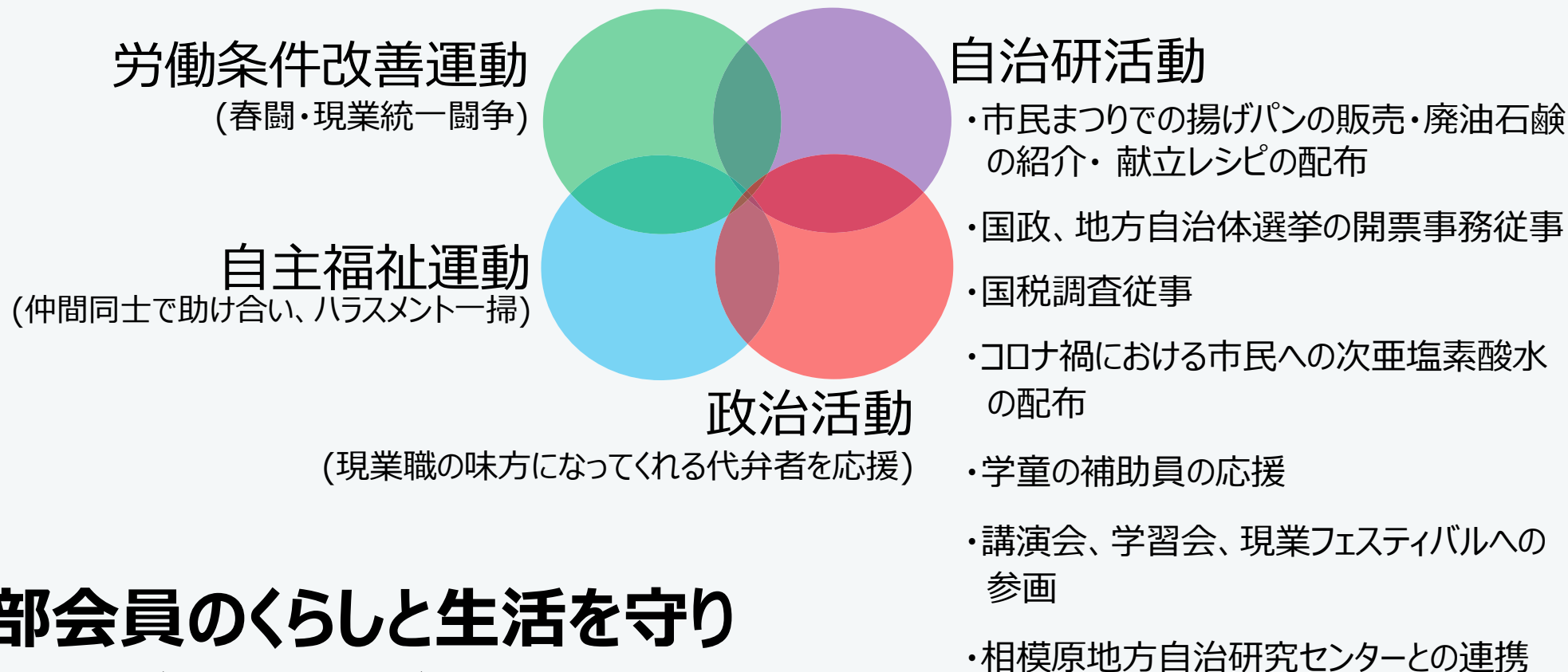
これから部会が求めることは？

正規調理員の固定した定数化

教育委員会に感謝

互いの立場を理解し、良好な関係・信頼関係を築くことが重要

学校給食調理員部会が行っている運動の柱



**部会員のくらしと生活を守り
働きがい・やりがいのある職場環境をつくる**

最後に…（24年間の歩みから、未来へつなぐ思い）

- 自分たちで将来展望を考え、目的達成には調理員一丸となって取り組む
- 調理員も同じ教育委員会の職員であることを認めてもらう
- ハラスメントを一掃し、明るい職場環境改善に努める
- 行政の職員としての自覚と誇りを持ち続ける
- 調理員自ら教育委員会に気軽に行ける環境をつくる
- 委託も直営も同じ給食をつくる仲間として共存し、相模原市の学校給食の発展をめざし取り組む
- 調理員から調理師へ

Yoshio Nishikawa

Kanagawakenhonbu

Sagamiharashi shokuin roudou Kumiai

Gakkō kyūshoku chouri-in bukai

24年ぶりの 学校給食調理員 新規採用を勝ち取るまで

諦めずに行動し続けること、対話を重ね信頼関係を築くことが、行政を動かす力に。
本報告が、各自治体での組合活動の一助となれば幸いです。